

設置の趣旨等を記載した書類

目次

1. 設置の趣旨及び必要性	p. 2
2. 学部・学科等の特色	p. 9
3. 学部・学科等の名称及び学位の名称	p. 10
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	p. 10
5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	p. 11
6. 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で 履修させる場合の具体的計画	p. 12
7. 編入学定員を設定する場合の具体的計画	p. 13
8. 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の 学外実習を必要とする場合の具体的計画	p. 13
9. 入学者選抜の概要	p. 14
10. 教員組織の編成の考え方及び特色	p. 16
11. 施設、設備等の整備計画	p. 16
12. 管理運営	p. 17
13. 自己点検・評価	p. 19
14. 情報の公表	p. 19
15. 教育内容等の改善を図るための組織的な取組	p. 20
16. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	p. 20

1. 設置の趣旨及び必要性

【意義・必要性】

(1) 趣旨・目的

本改組は、様々なデジタル技術やAI等の加速度的な進化・浸透、今後の東京圏の構造変化等を踏まえ、サイバー空間とフィジカル空間が高度に融合した未来社会を見据え、グローバルな視野を持ち、多様な人々と協働しつつ主体的に実践し続ける力を通じて、柔軟な発想で技術を駆使して新しい価値を創造できるトップレベルのエンジニア、さらには研究開発を担うイノベーターを養成することを目的とする。

これを実現するため、学科の壁をなくし、全校的な支援体制の下で、屋根瓦式で切れ目ない実践的教育を実現し、全校的な教学マネジメントを推進することを目的に、令和9年度から、本科1学科5コース・専攻科1専攻3プログラムへの改組、本科・専攻科一貫教育プログラムの新設、専攻科の入学定員の5名増員を行うものである。

(2) 社会的背景

東京工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、昭和40年に、機械工学科、電気工学科、工業化学科の3学科120名の定員で創立した。昭和45年に電子工学科が、昭和63年に情報工学科が新設され、平成5年に工業化学科が物質工学科に改組され、平成15年に専攻科が新設されて現在に至る。その間、社会の環境も産業構造も大きく変わり、教育内容も適時改訂を重ねているが、創造的で高い技術力を持ったエンジニアを育てる基本は変わらず、約9,500人の卒業生・修了生を社会に送り出してきた。

本校が立地する東京都多摩地域を挟み埼玉県南西部と神奈川県中央部に広がる広域多摩地域は、第2次大戦までの航空機、通信機器、計測機器等の軍需関連工場に由来し、高度成長期に制定された「首都圏の既成市街地における工業等の制限に関する法律（工業等制限法）」も契機となって、機械工業、中でも、工場のみならず研究開発・試作などの機能を担う拠点や設計能力を持った技術集約型企業が集積した。また、工業等制限法により都区部での新增設が抑制された大学等の移転もあり、企業と大学等研究機関の拠点が形成されてきた。

本校にはこうした地域産業との連携を深めるための「東京高専技術懇談会」があり、本校が主催する社会実装教育フォーラムや専攻科特別研究発表会などの支援、講演会の開催などとともに、会員企業へのインターンシップや、卒業研究、専攻科特別研究を含む共同研究が展開されている。また、八王子市が中心となって約20の大学等（約10万人の学生）で構成された「大学コンソーシアム八王子」唯一の国立高等教育機関として学園都市との連携にも携わってきた。

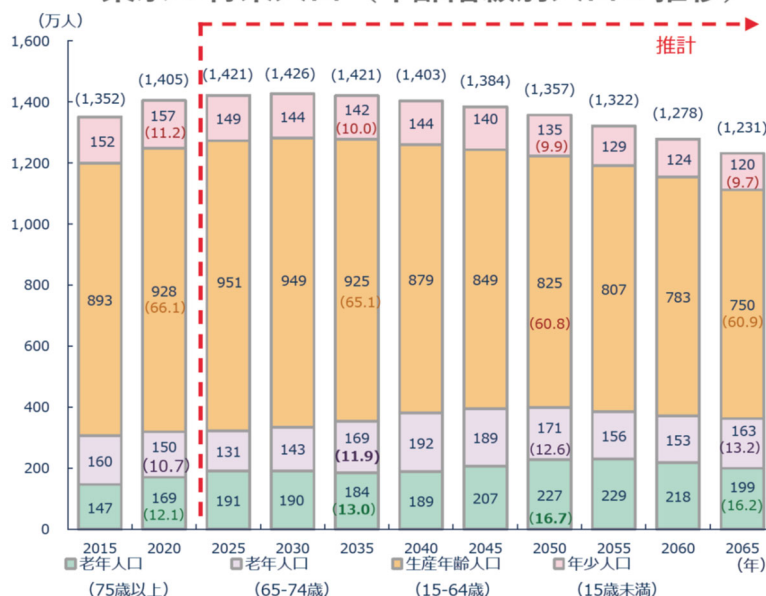
一方、本校創立以来、特に平成5年に現学科構成になって以降に限っても、バブル崩壊以降の産業構造の変化は著しく、全国の学卒者の就職先業種では、電気、機械、金属、化学をはじめとする製造業から、情報通信、医療等のサービス産業へのシフトが見られ、高専卒においても医療を除き同様の傾向がみられる。また、こうしたサービス産業などでは、就職者の学歴において高専卒の割合が減り大学院卒が増え、要求されるスキルの高度化が見受けられる。このような就職先の変化は、本校卒業生・修了生の就職先にも当てはまり、機械、電機、鉄道、電力、化学メー

カー等が中心だった就職先が、ネットワーク、ソフトウェアなどの IT 系企業に多様化しており、これまでの地域企業との繋がりや学生の就職先との乖離が大きくなってきている。

現在、様々なデジタル技術が加速度的に進化し、現実空間の情報が仮想空間にプログラム可能、或いはプログラムを要さず再現可能になり、現実空間と仮想空間の融合が進みつつある。また、生成 AI やエージェント型 AI 等が驚異的なスピードで浸透し、ホワイトカラーの業務にデジタルトランスフォーメーション（DX）をもたらしているが、様々なドメインの業務プロセスも変革させつつある。さらに、巨大で高度な推論能力をもつ“大きな AI “で人間が知覚できる空間を拡張するとともに、モノに組み込まれる”小さな AI”が人間のエージェントになり、AI 同士が協調する時代が到来すると予想される。

地理的にみると、東京大都市圏は AI・IT 系のスタートアップをはじめとする知識集約型企業が集積している。東京都が基本計画として令和 7 年 3 月にまとめた「2050 東京戦略」でも、世界最高にスタートアップフレンドリーな東京を目指し、大学や企業、自治体、スタートアップ支援者や挑戦者など多様な主体とグローバルに連携し、成長ステージに応じたスタートアップの成長機会を創出すると掲げている。一方の多摩エリア全体では、区部よりも早く、令和 7 年をピークに人口減少に転じると予想され、東京都が同時期にまとめた「多摩のまちづくり戦略」でも、持続的な成長を生み、活力にあふれる拠点を形成するため、地域の中小企業と大学等の連携による取り組みを推進するとされている。こうした社会・産業構造の変化に対し、本校としても適時対応を行ってきた。

東京の将来人口（年齢階級別人口の推移）

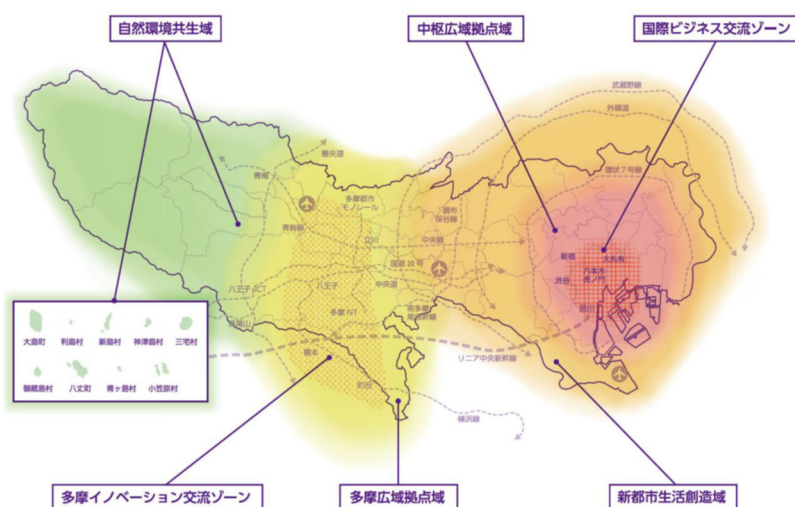


（出典）「2050東京戦略 附属資料 東京の将来人口」（東京都政策企画局）

（備考）1. 2025年以降は、東京都政策企画局による推計

2. グラフ上部の（）内の数字は、総人口。内訳の（）内の数字は、人口に占める割合

3. 四捨五入により、内訳の合計が総数と一致しない場合がある。



出典：都市づくりのグランドデザイン（東京都都市整備局） 平成29年9月

(3) 学科改組の必要性

本校は、伝統的に「社会実装教育」を重視し、平成 24 年度の「第 1 回社会実装コンテスト」以来、全国の高専生を対象に、コンテスト形式による発表、専門家の助言、交流等の場としての「社会実装教育フォーラム」を毎年主催してきた。また、平成 28 年度新入生から、全学科 4・5 年生の必修科目として、「社会実装プロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を導入し、学んだ知識と技能を総動員し具体的な社会課題を解決するためにチームで試作・改良し実社会への実装を試みるプロジェクトに取り組んでいる。さらに、最新の設備を備えた全国高専の教育研究等拠点として「社会実装教育研究センター」を設置し、社会実装に関する研究・教育を推進している。

また、本科第 1 学年は志望学科の異なる新入生を混合したクラス編成を行い、共通基礎科目と各専門学科の実験「ものづくり基礎工学」を全員が履修することで、中学校卒業直後の学生がスムーズに高等専門学校の教育に適応でき、幅広く専門学科の内容を理解した上で、希望と適性等に応じて、第 2 学年に進級する時点で学科配属を決定できるようにしている。

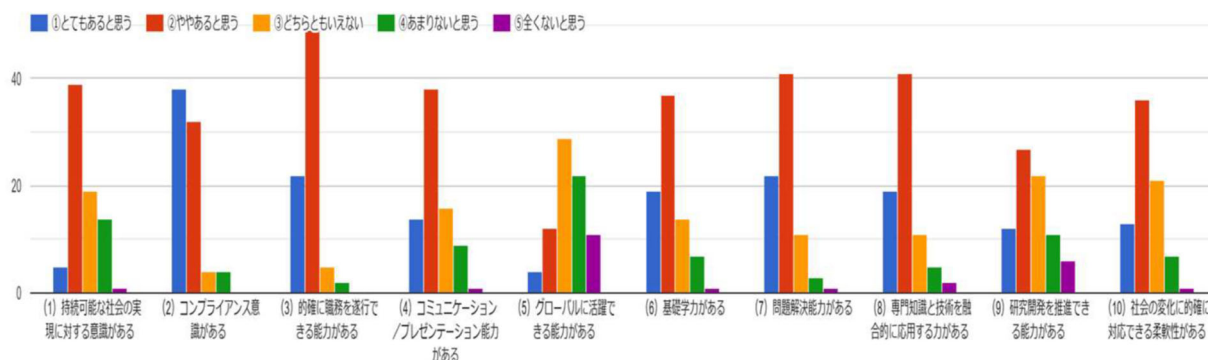
一方、前述の社会・産業構造の変化の中で、社会は複合的な課題に直面し、予測困難な時代を迎えているともいえる。現実のエンジニアリングでは、新たな課題に対応した複合的・横断的な専門知を獲得した上で、それぞれの専門の軸を持ちながら他分野の技術者等とチームを組んでプロジェクトを遂行することが主流となっている。こうしたことを踏まえ、各学科の科目構成もカリキュラムの内容も適時見直しを行っているが、各学科 10 人弱という小規模な教員組織で知識が急速に拡大する専門領域を自前で対応するには限界があり、一方で各学科の教育内容も学生の進路も重複、共通要素が増えている。

さらに今後の人材養成については、2030 年、2050 年の産業構造の転換を見据え、産学官が目指すべき人材育成の大きな絵姿を示した経済産業省の「未来人材ビジョン」（令和 4 年 5 月）では、仕事に必要な能力等として、現在の「注意深さ・ミスがないこと」、「責任感・まじめさ」から、将来は「問題発見力」、「的確な予測」、「革新性（新たなモノ、サービス、方法等を作り出す能力）」が一層求められると予測されている。そして、中央教育審議会答申「我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～」(令和 7 年 2 月)では、専門を生かすための前提となる基礎的・汎用的な能力や分野を超えた専門知を組み合わせ、「総合知」の創出・活用が必要とされる時代と捉え、情報基盤社会の基盤的リテラシーを身につけた上で、専門知そのものの深掘り・広がりとともに、専門知を持ち寄って多様な他者と対話し、交流・融合・連携を進めることにより、知の活力を生み出すことのできる人材が求められるとしている。

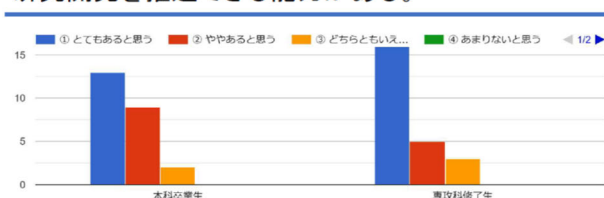
また、日本が目指すべき未来社会の姿として提唱する“Society 5.0”は、「サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」である。政府の「第 6 期科学技術・イノベーション基本計画」（令和 3 年 3 月）も、サイバー空間とフィジカル空間とがダイナミックな好循環を生み出す社会への変革を目標に、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度のほか、インターンシップ、PBL 等も活用した学修成果を重視する教育の推進が求められている。

本校が令和6年度に実施した「卒業生、企業アンケート」（平成28年度から令和5年度の本科卒業生、専攻科修了生（回答78名／送付633名）及び本校学生のインターンシップ、就職先企業の人事担当者（回答24社／送付211社）では、回答のあった卒業生・修了生からは、「グローバルに活躍できる能力」「研究開発を推進できる能力」の習得認識が「的確に職務を遂行できる能力」や「問題解決能力」等と比べ低かった。また、専攻科への進学理由としては研究の継続や海外経験という声が比較的高かった。一方、正社員数3,000人以上から100人以下まで様々だが企業からは、「研究開発を推進できる能力」や「持続可能な社会の実現に対する意識」で専攻科生の評価が相対的に高く、高専教育においてどの程度力を入れるべきかとして、「チームワークで研究開発を遂行する教育」や「アントレプレナーシップ」、「様々な専門知識・技術を複合・融合的に応用する教育」を挙げ、研究職や上級職などのキャリアパスの観点や高専卒ならではの独自性の観点などから、ほぼ全ての回答企業が、専攻科までの一貫教育プログラムの意義を認めている。

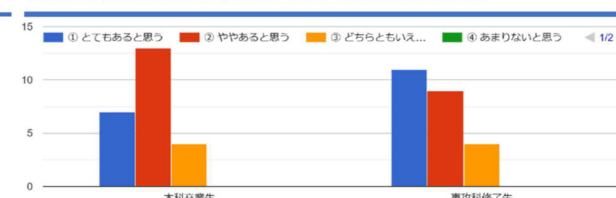
以下の項目の能力について、現在のあなた自身は習得していると思いますか。



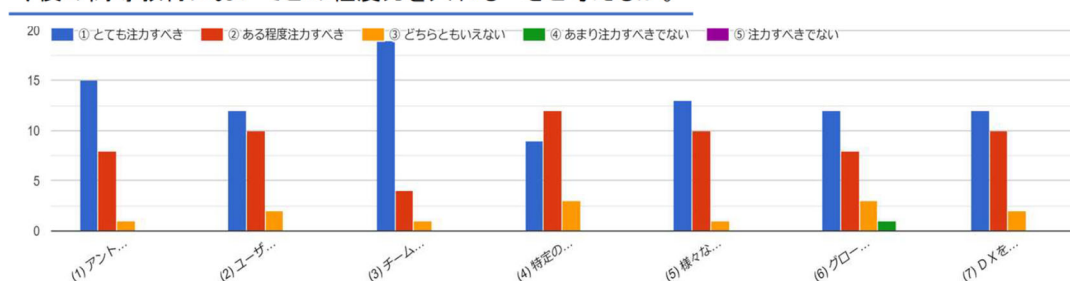
研究開発を推進できる能力がある。



持続可能な社会の実現に対する意識がある。



今後の高専教育においてどの程度力を入れるべきと考えるか。

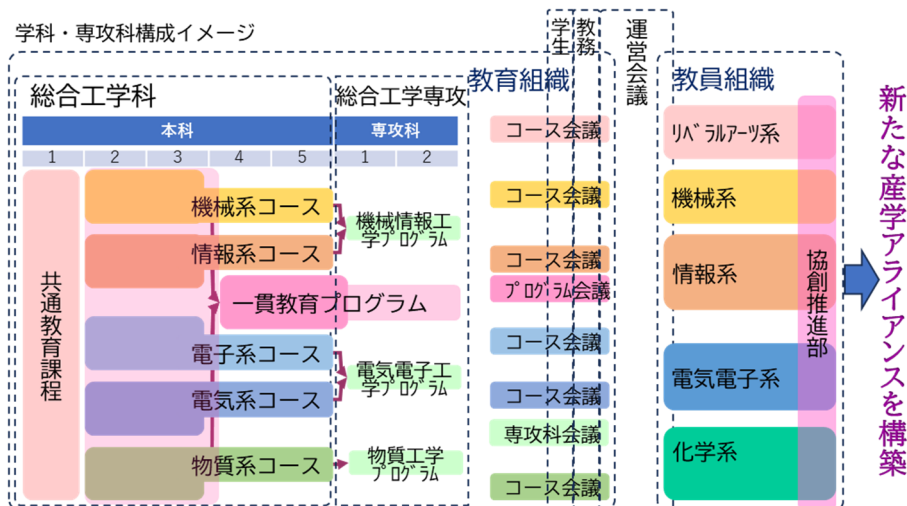


(1) アントレプレナーシップ、(2) ユーザとの対話を意識した社会実装PBL教育、(3) チームワークで研究開発を遂行する教育、(4) 特定の専門知識・技術に精通したプロフェッショナルを育てる教育、(5) 様々な専門知識・技術を複合・融合的に応用する教育、(6) グローバルに活躍するためのスキルを磨く教育、(7) DXを推進する数理・データサイエンス・AI教育

また、地元の八王子市商工会議所からも、学科の壁をなくす改組や本科・専攻科一貫教育プログラムの新設による専攻科の拡充を、本校と共創する企業に新たな価値をもたらすDXの推進など本市産業の牽引に大いに貢献するものとの強い期待が寄せられている。

【資料1】学科の改組と専攻科の基本的拡充について（八王子商工会議所）

本改組は、このような変化と要請にこたえ、首都東京都に立地する国立高専としての10年、20年先の将来を見据え、試行錯誤を繰り返しながら、柔軟な発想で、技術を駆使して新しい価値を創造できるトップエンジニアを養成する基本は維持



しつつ、以下を柱に、令和9年度から、既設の本科5学科、専攻科3専攻制から本科1学科5コース・専攻科1専攻3プログラムへの改組、本科・専攻科一貫プログラムの新設、専攻科の入学定員の5名増員を行うものである。

- 学科の壁をなくし、社会の変化に柔軟に対応するとともに、教員間の協働を促進しつつ学生の関心、適性、キャリアに応じた多様な学修を推進するため、本科を「総合工学科」とする。
- 全校的な支援体制の下で複数分野の指導教員のもとでの融合的・複合的な研究・指導を強化するため、専攻科を「総合工学専攻」とし、収容定員を50人とする。
- サイバー空間とフィジカル空間の融合が進む中で研究開発を担うイノベーターを養成するため、本科4学年から専攻科までを一貫した「協創工学一貫教育プログラム」（1学年20人程度）を新設する。
- 本校が取り組んできた社会実装教育などのPBL科目群や卒業研究等を全校的に体系化し、本科・専攻科ともに屋根瓦式で切れ目ない実践的教育を実現する。
- 切れ目ない実践的教育によるPBL・演習科目の充実、大学等との科目連携を充実させるため、学修単位科目を60単位以上配置できるようにする（高等専門学校設置基準第十七条第五項に係る教育課程等の特例制度の申請予定）。
- トップエンジニアに必要な分野を超えた実践力、創造力、研究開発能力等の達成度を標準ルーブリックで測り、学生が成長度を実感できるようにする全校的な教学マネジメントを推進する。

【養成する人材像】

本校は、建学当初の「どのような局面にも対処できる柔軟な心と いかなる困難も乗り越えうる強固な意志と あらゆる試練に耐えうる健全な身体を持ち しかも人間として好ましい味と

深みとのある人柄であり 必要な学問と技術との基礎を充分身につけていて いつでもどこでも自由に応用できる能力があり 長い一生を通じて限りなく伸び続けて行くことのできる 潜在力のある人物を育成する」との教育方針を踏襲している。

これを踏まえ、「総合工学科」の養成する人材像は、「グローバルな視野を持ち、多様な人々と協働しつつ主体的に実践し続ける力を通じて、柔軟な発想で技術を駆使して新しい価値を創造できるトップレベルのエンジニア」とし、グローバルな視点と分野を超えた協働、実践を重視する。

【総合工学科のディプロマ・ポリシー】

- (A) 技術と地球環境や社会との関係や異なる文化・社会を理解し、技術者に求められる倫理観と的確な行動規範を認識し、社会に主体的に関わる責任を自覚している
- (B) 言語や情報、データを活用し、他者と協調しつつ積極的にコミュニケーションできる能力を身につけ、グローバルな視野に立って、多様な人々と協働することができる
- (C) 自然科学系の一般科目で培われた基礎学力と専門分野の基本的な知識・技能を修得し、様々な課題解決のために活用できる実践力、創造力、研究開発能力を身につけている
- (D) 生涯にわたって健全な心身を維持し、自ら学び続ける姿勢を持ち、社会の変化に柔軟に対応し課題に挑戦し続ける力を身につけている

総合工学科は、5 コース、1 プログラムで構成し、総合工学科ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針で教育を行う。

【機械系コース】

機械工学の基礎の上に、力学、設計・生産技術、知能・システム制御の専門的知識を有し、これらを活用し、実践力、創造力、研究開発能力を身につけている

【電気系コース】

電気電子工学の基礎の上に、情報・通信、電子物性・デバイス、エネルギー・制御の専門的知識を有し、これらを活用し、実践力、創造力、研究開発能力を身につけている

【電子系コース】

電気電子工学の基礎の上に、半導体、AI、計測・データ解析の専門的知識を有し、これらを活用し、実践力、創造力、研究開発能力を身につけている

【情報系コース】

情報工学の基礎の上に、ソフトウェア、ハードウェア、情報コミュニケーション、情報科学・応用の専門的知識を有し、これらを活用し、実践力、創造力、研究開発能力を身につけている

【物質系コース】

物質工学の基礎の上に、物質科学（無機・有機・高分子）、化学プロセス（分析・物理化学・化学工学）、生物・環境の専門的知識を有し、これらを活用し、実践力、創造力、研究開発能力を身につけている

【協創工学一貫教育プログラム】（令和9年度入学生の第4学年次進級年度に創設）

サイバー空間とフィジカル空間が高度に融合した未来社会に関する基本的知識をもとに、

機械、電気電子、情報、物質各工学分野の幅広い知識と各々の専門性を統合し、専門や背景の異なる他人々と積極的に協働し様々な課題解決のために新しい価値を生み出すことができる実践力、創造力、研究開発能力を身につけている

【総合工学専攻のディプロマ・ポリシー】

- (A) 技術と地球環境や社会との関係や異なる文化・社会を理解し、技術者に求められる倫理観と的確な行動規範を備え、責任感を持って社会に主体的に関わることができる
- (B) 言語や情報、データを活用し、他者と協調しつつ積極的にコミュニケーションできる能力を身につけ、グローバルな視野に立って、異なる分野、背景を持つ人々と協働することができる
- (C) 自然科学系の一般科目で培われた基礎学力と専門分野の広範で実践的な知識・技能を修得し、様々な課題解決のために活用できる実践力、創造力、研究開発能力を身につけている
- (D) 生涯にわたって健全な心身を維持し、自ら学び続ける姿勢を持ち、社会の変化に柔軟に対応し課題に挑戦し続ける力を身につけている

総合工学専攻は、4 プログラムで構成し、総合工学専攻ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針で教育を行う。

【機械情報システム工学プログラム】

主として機械工学および情報工学の複合領域からなる機械情報システム工学（メカトロニクス・ロボティクス、計測、システム制御、材料・熱・流体・機械の力学、材料の加工、機械の設計と製作、計算機、信号処理、情報通信、知識工学）に関わる専門基礎知識を有し、他分野の知識を組み合わせ、新しい価値を生み出すことができる実践力、創造力、研究開発能力を身につけている

【電気電子工学プログラム】

主として電気電子工学（電子回路、デジタル回路を含む電気回路、および情報処理、各種通信、制御技術、電力、電子物性とこれらを応用したデバイス）に関わる専門基礎知識を有し、他分野の知識を組み合わせ、新しい価値を生み出すことができる実践力、創造力、研究開発能力を身につけている

【物質工学プログラム】

主として物質工学（物理化学、無機化学、有機化学、分析化学、生物化学、化学工学）に関する専門基礎知識を有し、他分野の知識を組み合わせ、新しい価値を生み出すことができる実践力、創造力、研究開発能力を身につけている

【協創工学一貫教育プログラム】（令和9年次本科入学生の専攻科入学年度に創設）

サイバー空間とフィジカル空間が高度に融合した未来社会に関する基本的知識をもとに、機械、電気電子、情報、物質各工学分野の幅広い知識と各々の専門性を統合し、専門や背景の異なる人々と積極的に協働し様々な課題解決のために新しい価値を生み出すことができる実践力、創造力、研究開発能力を身につけている

2. 学部・学科等の特色

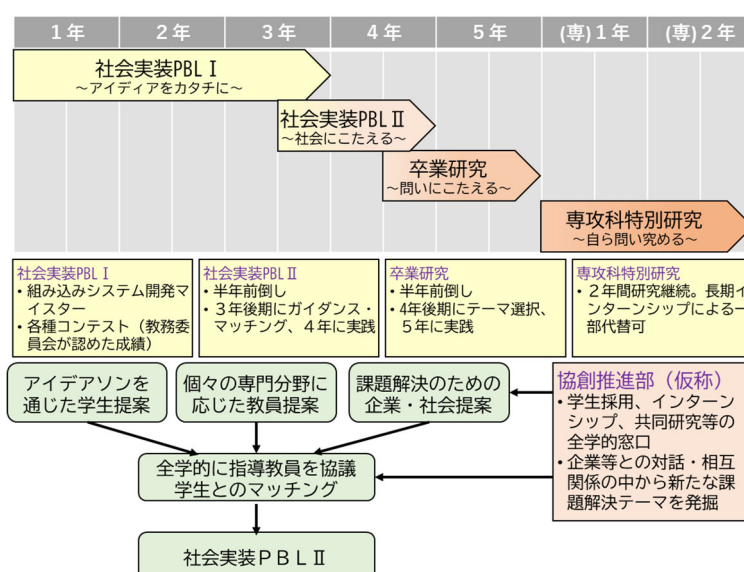
本校は、志望学科ごとに入学させた上で本科第1学年は志望学科の異なる新生を混合したクラス編成を行ってきた。1学科化することにより、第1学年を「共通教育課程」と位置付け、全学科の工学的基礎的素養を修得させる。これにより、より広範にものづくりに興味のある優れた学生を受け入れ、幅広い知識の裾野と多様な興味の中から進路を選択することを可能とし、また、多様な分野の者と協働する基礎を築く。

また、第2・第3学年を「基盤力養成課程」、第4・第5学年を「実践力養成課程」とし、課程内の複数学年で、学科の分野を超えた科目選択の幅を広げるとともに、進級判定をユニット毎に行う方向に転換していく。これにより、学生の関心・適性に応じた学修を促進するとともに、コース選択に伴う学生のミスマッチやモチベーションの低下や、原級留置で学級の繋がり・居場所が途絶える課題を抑える。

本校専攻科は、学生が主体的に作成した実施計画書に従って、社会実装、国内外における長期インターンシップ（共同研究型、海外）、創造的な研究を組み合わせた活動を第1学年後期に集中して行ってきた。1専攻化し増員することにより、学生の採用やインターンシップ、共同研究など企業との窓口を一元化した協創推進部の全校的な研究支援のもと、複数分野の指導教員のもと、これまでの専攻の枠にとらわれないチームでの2年間を通した学修研究計画と創造的研究を行い、融合的・複合的な研究・指導を強化する。

本科第4学年進級時の校内選抜による本科・専攻科一貫の「協創工学一貫教育プログラム」（1学年20人程度）を新設する。協創推進部の支援のもと、サイバー・フィジカル両分野で協力して取り組むプロジェクトを腰を据えてやり遂げ、起業、特許、論文、発表、外部資金獲得など、社会に成果を示しプログラム修了を認定する。これにより、サイバー空間とフィジカル空間の融合が進む中で、研究開発を担うイノベーターを養成する。専攻科への進学は特別選抜で行い、一方で本科で就職等する者には該当コースの卒業研究を経て卒業する道も用意する。なお、本プログラム学生が専攻科に入学する段階で、専攻科の10名増員を予定する。

本校が重視してきた社会実装教育を軸に、全校横断科目として、本科第1～第3学年の「社会実装 PBL I」、第3学年後期から第4学年の「社会実装 PBL II」、4学年後期からの「卒業研究」、専攻科の「特別研究」を配置し、屋根瓦式で切れ目ない実践的教育を実現する。特に「社会実装 PBL I」は、本校が LINE ヤフー株式会社と共同で行ってきた「組み込みシステム開発マイスター」を正課の学修単位科目として組み込むとともに、各種コンテストに出場し一定の成績を修めた学生にも単位を付与し、学生の主体性・積極性を評価する。また、全コース必修の



「社会実装 PBLⅡ」は、協創推進部と企業等との対話の中から新たな課題解決テーマを発掘し、実社会の課題解決を試みる PBL の強化を図る。

1 学科化により、旧学科を超えた教員の専門性に応じた担当科目の配当や学級単位にとらわれない授業方法の工夫ができることに伴い、“Just-in-Time Learning”を推進し、知識の実践・活用場面に即して数理・工学の基礎的概念を指導・学修する取り組みを推進する。これにより、一般科目と専門科目の連携を深めるとともに、基礎的概念の実践的・本質的な理解を推進する。

屋根瓦式で切れ目ない実践的教育を実現するため、全学年に学修単位による PBL・演習科目を配置する。また、「大学コンソーシアム八王子」参加大学など他大学等との科目連携を推進するため、学士課程相当の科目については学修単位を採用する。このため、授業外学修を把握する LMS と把握のためのガイドラインを示したうえで、卒業までに取得できる学修単位数の上限 60 単位を超えて科目を配置できるようにする。

ディプロマ・ポリシーで求める汎用的能力（実践力、創造力、研究開発能力、コミュニケーション能力等）と関わりの深い科目との対応を明らかにするとともに、全校的な標準ルーブリックを作成し、全学的な教学マネジメントを強化する。これにより、学生がディプロマ・ポリシーに即した達成度、成長度を継続的に実感できるようにする。

3. 学部・学科等の名称及び学位の名称

新学科の名称 : 総合工学科 (Department of Integrated Engineering)

準学士課程の分野 : 工学

新専攻科の名称 : 総合工学専攻 (Advanced Course of Integrated Engineering)

専攻科課程の分野 : 工学

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

総合工学科は、ディプロマ・ポリシーに定めた 4 つの能力を学修するため、一般科目と専門科目を配置し、以下のように 5 年一貫の体系的な教育課程を編成する。

- (A) 技術と地球環境や社会との関係や異なる文化・社会を理解し、技術者に求められる倫理観と的確な行動規範を認識し、社会に主体的に関わる責任を自覚していることを達成するため、社会科学の一般科目、技術者倫理、及び各分野の(A)に関わる専門科目などの学修を体系的に編成する。
- (B) 言語や情報、データを活用し、他者と協調しつつ積極的にコミュニケーションできる能力を身につけ、グローバルな視野に立って、多様な人々と協働することができることを達成するため、グループワーク、発表及び討論を取り入れた国語や外国語に関わる一般科目、情報基礎及び各分野の(B)に関わる専門科目などの学修を総合的に編成する。
- (C) 自然科学系の一般科目で培われた基礎学力と専門分野の基本的な知識・技能を修得し、様々な課題解決のために活用できる実践力、創造力、研究開発能力を身につけていることを達成するため、自然科学に関する一般科目、工学基礎や各専門分野ならびに融合・複合分野の専門科

目を、ものづくりマインドを養う実験・実習・演習科目及び卒業研究とを組み合わせ、学修を体系的に編成する。

- (D) 生涯にわたって健全な心身を維持し、自ら学び続ける姿勢を持ち、社会の変化に柔軟に対応し課題に挑戦し続ける力を身につけていることを達成するため、保健体育や健康福祉、芸術に関わる一般科目、及び各分野の(D)に関わる専門科目などの学修を体系的に編成する。

本校は、実践的・創造的技術者を養成する使命を踏まえ、必要な実践力、創造力、研究開発能力を備えることを軸に、そのために活用すべき専門的・基礎的知識及び社会スキル等を実践的に身に付けさせるため、実験・実習・PBL・演習の各科目を重視し、これらを必修とすることで、資質能力の具備を保証している。

その上で、実践力・創造力・研究開発能力の修得のために活用すべき専門的知識及びその基礎学力を修得するために専門科目及び一般科目の殆どを必修科目として配置しており、各コースのディプロマ・ポリシーに列記した領域毎に一定数の単位の修得を要件とするとともに、各科目で必要となる前提知識・スキルを明確にし、各履修科目の知識・スキルの運用、統合能力の確認を行いながら系統的に教育課程を編成・運用することで、ディプロマ・ポリシーに定める能力の具備を保証している。

5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

【教育方法、履修指導方法】

本校は、1 学年当たり 5 学級である。学年制をとり、進級するためには教育課程に定められるように、各科目を定められた学年で履修しなければならない。各学年の履修科目は、学生に過度の負担とならないように定め、年間登録上限（CAP 制）を設定していないが、学生の週当たりの学修時間のめやすを基準に各年 42 単位を上限とする。

各学級には担任、副担任を配置し、学生の履修指導を含む学級及び学年の管理・運営にあたる。

学級には、クラスルームが割り当てられており、座学の授業はこのクラスルームで受講する。演習科目については、各コースで準備された演習室、実験室で受講する。各授業の学生数については、必修科目は学級単位で受講するため $40 + \alpha$ （留学生、編入生および原級留置学生）名である。一般科目の選択科目は、複数科目を同時開講して、少人数での授業も可能となっている。専門の選択科目は、専門知識を広く学べるように可能な限り同時開講は行わず通常の教室で受講する。

【進級・卒業要件】

本校の教育課程は、学年制を取りながらも授業科目ごとに単位数が定められていて、進級又は卒業するにはそれぞれに必要な単位数を修得しなければならない。各学年での修得単位数は以下のようになっている。これに従い、順次進級し、最終的に第 5 学年で修得すべき単位数（167 単位）を修得すれば、卒業を認定する。

1 学年：1 学年において一般科目 21 単位以上、専門科目 5 単位以上、
合計 27 単位以上修得

ある。さらに、他の高専や大学等で開設されているオンライン授業科目についても、その学修を許可し修得単位として認定することもできる。

7. 編入学定員を設定する場合の具体的計画

第3学年又は4学年への編入学定員を若干名として設定している。編入学試験は、前年度7月に行う。調査書、学力検査、面接の結果を総合的に評価して入学者の選抜を行う。学力検査は、一般科目は数学、英語とし、出題科目と出題範囲を明示する。

既修得単位の認定は学生ごとに個別に行う。また、入学後には、各コースにおいて入学前補習等を実施して円滑な編入を支援する。

8. 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を必要とする場合の具体的計画

【インターンシップ】

新設する学科では、4年次の「インターンシップ」においてインターンシップを行う。本科目の成績評価は、実習状況調査書の提出、インターンシップ報告会での発表をもって合否を判定する。

[直近の実績]

令和5年度 校外実習実績 参加学生：本科4年生 193名 受入先企業および大学：180社6校

令和6年度 校外実習成績 参加学生：本科4年生 176名 受入先企業および大学：155社4校

令和7年度 校外実習成績 参加学生：本科4年生 190名 受入先企業および大学：165社5校

[想定される実績（令和8年度）]本科4年生 200名 受入先企業：180社程度

【資料2】令和6年度インターンシップ受入企業リスト

【海外研修】

本科では海外研修を実施する科目はない。ただし、グローバル教育推進室が主導して任意参加のオーストラリア学生交流派遣（隔年実施）プログラムを企画する。

専攻科では第1学年時に行われる特別実習という科目内で、海外機関のインターンシップを選択し参加することができる。

[直近3年間の実績]

令和5年度 海外研修（オーストラリア、9日間、語学研修交流）

海外インターンシップ（タイ、1か月間、研修）

令和6年度 海外インターンシップ（台湾、マレーシア、1か月間、研修）

令和7年度 海外研修（オーストラリア、9日間、語学研修交流）

海外インターンシップ（台湾、アメリカ、1か月間、研修）

ヘルシンキ・メトロポリア応用科学大学工学分野と本校における学術協力に関する協定に基づく学生交流（フィンランド、約5か月間、研修）

9. 入学者選抜の概要

(1) アドミッション・ポリシー

求める学生像（本科共通）

【準学士課程】

アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）

本校では、ものづくり、基礎学力、技術者としての倫理観、コミュニケーション能力、グループ活動を大切に考えることを基本としたエンジニアを育てることを目標に、次のような入学者を求めます。

- (1) 理数系科目が好きであり、それらの科目の成績が優秀である。
- (2) 科学や技術の分野で新しいことを学びたいという学習意欲がある。
- (3) 英語でのコミュニケーション能力習得に熱意がある。
- (4) ものづくりに興味があり、新しいものを作りたいと考えている。
- (5) 仲間とともにグループで作業ができる。
- (6) 自覚的な行動ができる。
- (7) 規則正しい生活と、毎日の自発的学習ができる。

編入学者へのアドミッション・ポリシー

本校準学士課程への編入学者に関しては本科のアドミッション・ポリシーに準ずる。

入学者選抜の基本方針

(1) 推薦による入学者選抜

出身中学校長から推薦された志願者のうち、一定水準以上の数学・理科の学力を身につけ、かつ自発的・継続的な学習能力を有する本校への入学意志が強い志願者を受け入れる。

(2) 学力による入学者選抜

準学士課程における学習に必要な基礎学力をもつ志願者を数学の学力を重視した学力検査により選抜する。

(3) 編入学者の選抜

編入学を志望する学科（学年）の学習に必要な学力、意欲及び適性のある志願者を学力検査及び面接により選抜する。

入学者選抜の日程、方法、募集人員

推薦選抜（1月）、学力選抜（2月）

推薦選抜では、推薦書、調査書、面接の設問内容をアドミッション・ポリシーの観点から出題し、総合的に評価して入学定員の6割程度の入学者の選抜を行う。また、推薦要件を定め、明示する。

学力選抜では、調査書及び学力検査の結果を総合的に評価して入学定員の4割程度の入学者の選抜を行う。学力検査は、理科、英語、数学、国語の4教科による試験とする。

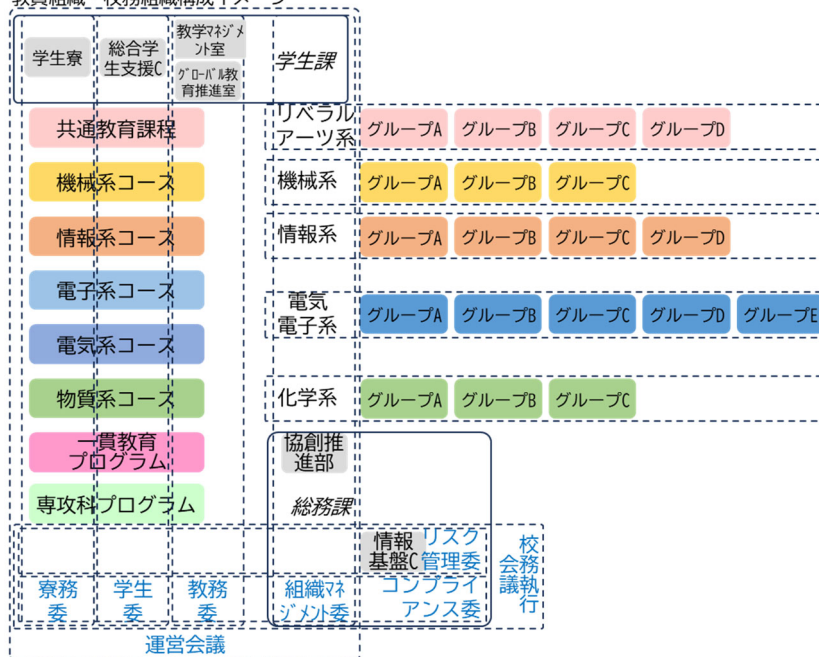
本校は従来から、くくり相当入試（平成17年度以降実施）を行っており、これを継承して、

正式なコース配属は 2 年進級時に行う。入学後の 1 年間は専門教育を含め、全員が共通教育を受ける。科目としては、幅広く工学分野の基礎を体験し、広い視野を持つ技術者を育成するために「ものづくり基礎工学」が開設されている。「ものづくり基礎工学」は 5 単位の専門科目である。5 コースすべての基礎的な内容を体験的に学習する実験科目であるため、現在の時間割では金曜日の昼食をはさんで 5 時間実施されている。この科目は、中学生の技術関連体験が乏しい状態で、技術者としての初期原体験が必要との認識で生まれた科目である。そして早期に広い分野での技術体験を行い、将来のエンジニアとしての目標を持たせ、視野の広い技術者を育てる教育の一部分をなしている。また 2 年進級時の希望コースを決めるための重要な体験にもなっている。この科目の実施には専門 5 コースの教員が携わっており、各コースは、その分野での基礎事項を含めた実験実習を用意し、かつ専門分野の特徴的な技術を体感できるように工夫している。学生は概ね、この科目の意義を理解し、他分野を志向している多様な学生との人間関係を構築し、新しい刺激に満足し、コース選択における根拠を見出している場合が多い。この制度により専門分野の変更の可能性を担保してミスマッチを防ぎながら、入学時に将来のエンジニア像を描いてコースを選択することで 1 年次から明確な目標を持ち、また他コースと自分が志向するコースとの関りを意識しながら、多角的に学習に取り組むことができる。

10. 教員組織の編成の考え方及び特色

学生が配属する各コース・プログラム(教育組織)と教員の所属する学系(教員組織)を分離し、学生から見たカリキュラムの系統性と、教員から見た専門の近接性を両立できる組織体制とする。各コース・プログラムの責任者と担任が所属学生のケアを行うが、旧学科毎に自前で担任、科目担当等を揃えることにこだわらず、各学系と調整しながら学校全体でコース・プログラムの教務分担を行う。一方、教員組織は専門分野の近接性に

教員組織・校務組織構成イメージ



じたグループに分け、グループ内で研究室運営を協力し教員間の協働を促すとともに、研究室の密室性を防ぐ。また、教員人事は、教育組織等の要請に基づきつつ、全校的な視野に立って組織マネジメント委員会で調整し行い、採用に当たっては、将来展望に照らして、年齢構成等も考慮し、同委員会が採用する教員の職位等の選考指針を提示して採用選考を行う。

これまで学科毎に対応してきた学生の採用やインターンシップ、共同研究などの窓口を一元化する協創推進部を置き、各コース担任の負担を軽減しつつ、企業等との日常的な対話から、学生のキャリアに近い課題を発掘しPBLに活かすなど、産学連携を強化する。

教員の校務負担軽減の観点から、本年4月に学校の管理運営に係る校務組織を「リスク管理」「コンプライアンス」「組織マネジメント」を軸に大別し、委員会・室を整理統合した。また、各教員の担務の単年度変更は極力避けるとともに、教務、学生支援、研究推進など教員の適性や希望に応じて担務の習熟、専門化を促し、専門性に応じた人事評価を行う。

11. 施設、設備等の整備計画

(1) 校地、運動場の整備計画

今回の組織変更では、すべての既設組織を新組織へと改組するため、既存の校地、運動場を使用して新たな教育課程での教育が行える。校地には、売店を含む福利厚生施設が整備されており、学生および教職員の交流、休息の場として活用する。

運動場は、野球場、グラウンド、第一体育館、第二体育館、武道場、合宿研修所、テニスコート等を有しており、授業や課外活動に幅広く利用することとしている。開学以来、これらの施設、運動場の整備を重ねてきており、使用に際しての問題はない。

(2) 校舎等施設の整備計画

教室や実験室、研究室についても、校地、運動場と同様に、教育・研究活動を行う上で十分な機能を有している。

12. 管理運営

校務執行会議（校長）

構成員：校長、副校長、校長特別補佐、事務部長、学科長、専攻科長、その他校長が必要と認めた者
審議事項：

- (1) 学則その他規則の制定及び改廃に関する事。
- (2) 組織、施設の設置及び改廃に関する事。
- (3) 予算の作成及び執行並びに決算に関する事。
- (4) 人事管理に関する事。
- (5) 協定の締結に関する事。
- (6) 情報公開及び保有個人情報に関する事。
- (7) 運営会議に諮るべき事項の整理に関する事。
- (8) その他校務運営についての重要事項に関する事。

運営会議（校長）

構成員：校長、副校長、校長特別補佐、事務部長、学科長、専攻科長、各学系・部長、各センター長、
その他校長が必要と認めた者

審議・報告事項：

- (1) 校務運営及び連絡調整に関する事。
- (2) 教員の組織に関する事。
- (3) 予算概算の基本に関する事。
- (4) 国際交流及び留学生交流協定等に関する基本的な事項に関する事。
- (5) 入学試験に関する事。
- (6) 学年課程修了の認定に関する事。
- (7) 卒業（修了）の判定に関する事。
- (8) 学生の身分及び処分の重要事項に関する事。
- (9) その他校長が必要と認めた事項。

組織マネジメント委員会（校長）

構成員：校長、副校長、校長特別補佐、事務部長、学科長、専攻科長、各学系・部長、各センター長、
その他校長が必要と認めた者

審議事項：

- (1) 将来構想、中期計画及び年度計画並びに計画実施に関する事。
- (2) 自己点検・評価並びに第三者評価及び審査に関する事。
- (3) 組織の在り方及び教職員の配置計画に関する事。
- (4) 教員の採用、雇用及び昇任等に関する選考に関する事。

- (5) 女性活躍及びダイバーシティの推進に関する事。
- (6) 予算及び決算に関する重要事項に関する事。
- (7) 事業の企画及び推進に関する事。
- (8) 施設・設備の整備計画及び環境整備に関する事。
- (9) 施設・設備の点検・評価及び有効活用に関する事。
- (10) 環境保全及び整備の計画及び点検・評価に関する事。
- (11) その他校長が指定した事項に関する事。

教務委員会（教務主事）

構成員：教務主事、学科長、専攻科長、教務主事補、教学マネジメント室長、グローバル教育推進室長、共通教育課程及び各コース・プログラムから選出された者、学生課長、その他校長が必要と認めた者

審議事項：

- (1) 教育計画の立案及び教務の連絡調整に関する事。
- (2) 教育課程及び授業計画に関する事。
- (3) 教育システムの点検及び改善に関する事。
- (4) 教員の資質向上に関する事（FDを含む）。
- (5) 個々の教員の自己点検・評価の実施に関する事。
- (6) 学生の身分異動及び学籍に関する事。
- (7) 定期試験に関する事。
- (8) 学生の学習指導及び研究指導に関する事。
- (9) 学生の進路指導及び情報収集に関する事。
- (10) 学生の海外留学等の支援に関する事。
- (11) 海外インターンシップの計画、実施及び学生派遣の支援に関する事。
- (12) 外国の教育機関等からの学生の受入に関する事。
- (13) 外国の教育機関等への学生の派遣に関する事。
- (14) その他教務、学生指導に関する事。

学修到達度検討会（教務主事）

構成員：全教員、教育研究技術支援センター所属技術職員、事務部長、総務課長及び学生課長
検討事項：

- (1) 学生の学修に関する事。
- (2) 学生の学修目標に対する到達度に関する事。
- (3) 科目担当教員及び当該科目担当教員所属学科の指導体制に関する事。
- (4) その他学生の主体的学びに関して必要な事項。

コース会議（コース長）

構成員：コース構成員

所掌事項：

- (1) 各コースの重要事項を具体的に審議し、各学科等の円滑な運営を図る。

13. 自己点検・評価

本校の自己点検・評価および PDCA サイクルの実施体制は、以下の通りである。

本校の自己点検・評価は、「組織マネジメント委員会」を中心に実施し、独立行政法人国立高等専門学校機構の中期目標・年度計画の進捗を確認する。その際、教育課程及び学修の成果に関する項目については、学科及び専攻科において、必要に応じて学生、卒業生若しくは修了生又は卒業生若しくは修了生の主な雇用者その他の関係者からの意見を活用しながら点検・評価を行い、教務委員会での審議に反映させるものとする。

また、毎年度、地域の外部有識者からなる参与会を開催し、当該年度の「自己点検・評価報告書」の内容を説明し、重要項目について評価を受けることで、独自の外部評価を行う。これらを踏まえた確認結果は、「自己点検・評価報告書」として年度ごとにまとめ、本校のウェブサイトで公表する。

自己点検・評価を受けて、校長は、改善が必要と認めた事項について、当該業務を所掌する副校長及び事務部長に改善を指示し、その改善策は同委員会に報告される。また、当該副校長等は、不断に教育研究等の改善に努めるとともに、必要に応じて組織マネジメント委員会に報告するものとしている。

14. 情報の公表

本校では、「独立行政法人国立高等専門学校機構情報公開取扱規則（平成 19 年 3 月 30 日機構規則第 70 号）」に則り、本校ホームページ（<https://www.tokyo-ct.ac.jp/>）にて下記情報を公開する。

- ・ 教育研究上の目的
- ・ 基本理念、教育方針、学習・教育目標
- ・ 教育研究上の基本組織
- ・ 教育組織、教員一覧、各教員の有する学位・業績
- ・ 入学者受入方針等
- ・ 授業科目、授業方法・内容、年間授業計画
- ・ 教育研究環境
- ・ 費用
- ・ 学生支援
- ・ 授業評価アンケート
- ・ 公的研究費等の運営・管理における責任体制
- ・ 研究不正への取組
- ・ 通報窓口について

- ・自己点検・評価報告書
- ・学校案内

15. 教育内容等の改善を図るための組織的な取組

(1) F D 講演会及び研修会(令和 6 年度)

新任教職員研修会(4 月)、教育研究会(数理・AI・データサイエンス応用基礎申請に向けたワークショップ)(6 月)、教育討論会(成績報告や試験問題作成のミス防止、新教学システムの導入に関するワークショップ)(8 月)、教育研究会(KIS 評価の対応方針と今後の課題に関するワークショップ)(10 月)、講演会(十代の「死にたい」気持ちに向き合う)(11 月)、教育研究会(教職員向けいじめ防止研修)(11 月)、FD 研修会(コーチングスキルを活用した学生相談のヒント)(12 月)、FD 研修会(ハラスメント防止研修)(1 月)

(2) 公開授業週間

前期と後期それぞれ 1 度ずつ、指定された期間内に、すべての教員が他の教員が担当する授業を見学し、自身の授業スキル向上のために気づいたことや改善すべき点を所定の書式で報告している。

(3) 授業評価アンケート

前期と後期それぞれ 1 度ずつ、指定された期間内に各教員が担当する科目 1 科目以上について受講する全学生を対象に授業アンケートを実施している。授業担当教員はアンケート結果を踏まえて、授業内で受講する学生に対してフィードバックを行ない、その内容について所定の書式で報告を行うことになっている。

(4) 卒業生・修了生・就職企業先アンケート

1 年に 1 度、前年度に卒業・修了した卒業生・修了生を対象にアンケートを行い、本校の学習教育目標の達成度および妥当性を確認している。結果は、カリキュラムの改善へ繋げている。また同様の理由で、4～5 年に一回程度、卒業・修了後 5～7 年経過した卒業生・修了生とその就職先企業を対象にアンケートを行っている。

16. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

本校では、教務委員会を中心に学生の社会的・職業的自立を達成するキャリア教育を指導している。

ア 教育課程内の取組 インターンシップ、社会実装プロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲ

イ 教育課程外の取組 工場見学、研修旅行、学科講演会、キャリア教育セミナー(同窓会主催)

ウ 適切な体制整備 学内進路支援サイトを設置し、学生がいつでも学外からでも進路にかかる情報を収集することができるように完備した。この他、就職や進学にかかる資料が閲覧できる談話室や各学科に進路指導室を整備している。

【資料 1】学科の改組と専攻科の基本的拡充について（八王子商工会議所）

【資料 2】履修モデル

【資料 3】令和 6 年度インターンシップ受入企業リスト

令和7年8月13日

国立東京工業高等専門学校

校長 樋口 聡 殿

八王子商工会議所

会頭 檜 崎



学科の改組と専攻科の抜本的拡充について

貴校におかれましては、1965年の創立以来、創造的な技術者の養成を通じて、八王子の産業界発展のために、格段のご高配とご尽力を賜り感謝申し上げます。

さて、ご高承の通り、社会環境の激しい変化やAIを始めとした新技術の台頭により、世界の不確実性は高く、将来予測が大変困難な時代を迎えております。一方、技術は加速度的に発展し続け、特にAIなどのデジタル技術は隅々まで浸透し、地域産業が持続可能で発展していくためには「DX」「GX」への対応が必要不可欠かつ急務となっております。

製品開発型企业、また試作開発などを支える開発支援型企业が多く集積する本市にとって、優れた工学系技術者を輩出する貴校の存在は極めて大きいものがあります。社会実装教育に長年にわたり取り組んできた貴校が、創立60年を機に、学科の壁をなくし全校体制の下で実践的教育を推進することは、貴校と共創する企業に新たな価値をもたらし得るものであり、サイバー空間とフィジカル空間の融合が進む中で研究開発を担うイノベーターを養成する「本科・専攻科一貫教育プログラム」の新設は、DXの推進など本市産業の牽引に大いに貢献するものと強く期待するものであります。

当所といたしましても、このような貴校の改革が実現され、柔軟な発想で技術を駆使しつつ、研究開発を担う優れた技術者が本市の産業界の発展に寄与するためにも、貴校の学科の改組と専攻科の抜本的な拡充が認められるよう要望いたします。

機械系コース

令和9年度1年生用

[illegible]

機械系コースでの開設単位数

	1年	2年	3年	4年	5年
一般累計	24	46	66	74	74
専門累計	7	17	29	60	82
合計累計	31	63	95	134	156
一般選択			1	10	6
専門選択			2	12	6

※赤枠内は累計。一般選抜および専門選抜は各年ごとの単位数

電気系コース

令和9年度1年生用

[illegible]

電気系コースでの開設単位数

	1年	2年	3年	4年	5年
一般累計	24	46	66	74	74
専門累計	7	18	30	63	87
合計累計	31	64	96	137	161
一般選択			1	10	6
専門選択			2	12	2

※赤枠内は累計、一般選抜および専門選抜は各年ごとの単位数

電子系コース

令和9年度1年生用

		選択科目		必修科目		必修科目		選択必修（科目群内の科目は必修科目でもある）は選択科目				
本学DP		本科1年		本科2年		本科3年		本科4年		本科5年		選択必修の条件
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
(A) 技術と地球環境や社会との関係や異なる文化、社会を理解し、技術者に求められる倫理的な行動規範を認識し、社会に主体的に関わる責任を自覚している	異文化理解や地球環境問題も含め地球の視野を持って多角的に物事を考える力			テクノロジーと未来								
	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果の自覚と、必要な倫理観や行動規範の理解	対話と哲学講義		現代社会論	近代史探究Ⅰ	近代史探究Ⅱ		技術者のための哲学概論				
	社会や環境、人々に対する影響などを評価した上で、技術者として責任をもって主体的に社会に関わる姿勢							社会実装PBLⅡ-Ⅰ（西語）	社会実装PBLⅡ-Ⅱ（西語）	社会実装PBLⅡ-Ⅲ（西語）		
	チームにおける責任と役割を理解し、その目標達成のために協働できる能力	総合英語A-Ⅰ	総合英語A-Ⅱ	総合英語A-Ⅲ	総合英語A-Ⅳ	総合英語A-Ⅴ		社会実装PBLⅢ-Ⅰ（西語）	社会実装PBLⅢ-Ⅱ（西語）	社会実装PBLⅢ-Ⅲ（西語）		
	英語での理解、表現。表現するとともに、言語や文化の異なる他者を理解しコミュニケーションできる能力	総合英語B-Ⅰ	総合英語B-Ⅱ	総合英語B-Ⅲ	総合英語B-Ⅳ	総合英語B-Ⅴ		TOEIC English	English Seminar(英語)	Comprehensive English	英語Ⅰ	英語Ⅱ
		総合英語C-Ⅰ			総合英語C-Ⅱ	総合英語C-Ⅲ	Eng. for Sci. & Technology		社会実装PBLⅢ-Ⅳ（西語）			
		英語総合Ⅰ	英語総合Ⅱ	英語総合Ⅲ	英語総合Ⅳ		英語総合Ⅴ	文章表現法				
	必要な情報・データを収集し、適切な評価・分析に基づき、効果的に活用できる能力	情報基礎Ⅰ	情報基礎Ⅱ					社会実装PBLⅣ-Ⅰ（西語）	社会実装PBLⅣ-Ⅱ（西語）	社会実装PBLⅣ-Ⅲ（西語）	卒業研究Ⅰ	卒業研究Ⅱ
(B) 言語や情報、データを活用し、他者と協働しつつ積極的にコミュニケーションできる能力を身に付け、グローバルな視野に立って、多様な人々と協働することができる	自分の特性や強み、得意難などを把握しながら、健全な心身を維持するための自己管理能力	健康と福祉		体育Ⅰ	体育Ⅱ	体育Ⅲ		体育Ⅳ				
	将来のキャリアを展望して、必要なスキルを得るために自主的、継続的に学び続ける姿勢											
	社会の問題やその変化に思いを馳せ、自分なりの解決策をデザインし挑戦し続ける姿勢											
(C) 自然科学系の一般科目で培われた基礎学力と専門分野の基本的な知識・技能を修得し、様々な課題解決のために活用できる実能力、創造力、研究開発能力を身につけている	数学	基礎数学ⅠA	基礎数学ⅡA	解析ⅠA	解析Ⅱ	解析Ⅲ	微分方程式	数学総合演習Ⅰ	数学総合演習Ⅱ			
				解析ⅠB			確率統計	統計リテラシー	応用数学			
	基礎数学ⅠB	基礎数学ⅡB	線形代数Ⅰ	線形代数Ⅱ	線形代数Ⅲ							
	物理Ⅰ	物理Ⅱ	物理Ⅲ	物理Ⅳ	物理Ⅴ	物理Ⅵ					量子からみた世界	
	化学Ⅰ	化学Ⅱ	化学Ⅲ	化学Ⅳ	化学Ⅴ	化学基礎						
	生物Ⅰ	生物Ⅱ	生物Ⅲ	生物Ⅳ	生物Ⅴ	生物Ⅵ						
	工学Ⅰ	工学Ⅱ	工学Ⅲ	工学Ⅳ	工学Ⅴ	工学Ⅵ						
	情報Ⅰ	情報Ⅱ	情報Ⅲ	情報Ⅳ	情報Ⅴ	情報Ⅵ						
	芸術Ⅰ	芸術Ⅱ	芸術Ⅲ	芸術Ⅳ	芸術Ⅴ	芸術Ⅵ						
	外国語Ⅰ	外国語Ⅱ	外国語Ⅲ	外国語Ⅳ	外国語Ⅴ	外国語Ⅵ						
(D) 自然科学系の一般科目で培われた基礎学力と専門分野の基本的な知識・技能を修得し、様々な課題解決のために活用できる実能力、創造力、研究開発能力を身につけている	半導体											
	電気回路Ⅰ	電気回路Ⅱ	電気電子計測	電気回路Ⅲ	電子物性工学	電気回路Ⅳ						
	電気電子工学実験Ⅰ	電気電子工学実験Ⅱ	電気電子工学実験Ⅲ	電気電子工学実験Ⅳ	電気電子工学実験Ⅴ	電気電子工学実験Ⅵ						
	デジタル回路	プログラミング言語	電子回路Ⅰ	電子回路Ⅱ	電子回路Ⅲ							
	電気回路演習Ⅰ	電気回路演習Ⅱ	電子回路Ⅰ	電子回路Ⅱ	電子回路Ⅲ							
	電磁気学Ⅰ	電磁気学Ⅱ	電磁気学Ⅲ	電磁気学Ⅳ	電磁気学Ⅴ	電磁気学Ⅵ						
	デジタル回路	プログラミング言語	電子回路Ⅰ	電子回路Ⅱ	電子回路Ⅲ							
	電気回路演習Ⅰ	電気回路演習Ⅱ	電子回路Ⅰ	電子回路Ⅱ	電子回路Ⅲ							
	電磁気学Ⅰ	電磁気学Ⅱ	電磁気学Ⅲ	電磁気学Ⅳ	電磁気学Ⅴ	電磁気学Ⅵ						
	デジタル回路	プログラミング言語	電子回路Ⅰ	電子回路Ⅱ	電子回路Ⅲ							
(E) 自然科学系の一般科目で培われた基礎学力と専門分野の基本的な知識・技能を修得し、様々な課題解決のために活用できる実能力、創造力、研究開発能力を身につけている	基礎電気工学											
	基礎電子工学											
	通信回路Ⅰ											
	計算機システム											
	生体材料工学											
	ロボット・モビリティ工学											
	ロボット・モビリティ工学											
	ロボット・モビリティ工学											
	ロボット・モビリティ工学											
	ロボット・モビリティ工学											
(F) 自然科学系の一般科目で培われた基礎学力と専門分野の基本的な知識・技能を修得し、様々な課題解決のために活用できる実能力、創造力、研究開発能力を身につけている	基礎電気工学											
	基礎電子工学											
	通信回路Ⅰ											
	計算機システム											
	生体材料工学											
	ロボット・モビリティ工学											
	ロボット・モビリティ工学											
	ロボット・モビリティ工学											
	ロボット・モビリティ工学											
	ロボット・モビリティ工学											

電子系コースでの開設単位数

	1年	2年	3年	4年	5年
一般累計	24	46	66	74	74
専門累計	7	18	30	59	83
合計累計	31	64	96	133	157
一般選択			1	10	6
専門選択			2	14	6

※赤枠内は累計、一般選抜および専門選抜は各年ごとの単位数

情報系コース

令和9年度1年生用

本邦IDP		選択科目		必修科目		必修科目		選択科目 (科目群内の科目は必修科目あるいは選択科目)		選択必修の科目	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
(A) 技術と地球環境や社会との関係の発展や変化、社会を構築し、我々が求めらるる価値観と的確な行動規範を認識し、社会に主体的に関わる責任を自覚している	異文化理解や地球環境問題も含め地球の視野を持って多角的に物事を考える力	テクノロジートと未来		近代社会論		近代史探究Ⅰ 近代史探究Ⅱ		技術者のための数学論			
	技術が社会や自然に与える影響や結果の自覚と、必要な倫理観や行動規範の理解	対話と習字論						社会実装 PBLⅠ-Ⅱ (西語)		社会実装 PBLⅡ-Ⅱ (西語)	
	社会や環境、人々に対する影響などを詳細にたどって、技術者として責任をもって主体的に社会に関わる姿勢							社会実装 PBLⅠ-Ⅱ (西語)		社会実装 PBLⅡ-Ⅱ (西語)	
(B) 言語や情報、データを活用し、物事を認識しつつ積極的にコミュニケーションできる能力を身につけ、グローバルな視野に立って、多様な人々と協働することができる	チームにおける責任と役割を理解し、その目標達成のために協働できる能力	総合英語 A-Ⅰ	総合英語 A-Ⅱ	総合英語 A-Ⅲ	総合英語 A-Ⅳ	総合英語 A-Ⅴ		TOEIC English (西語)	英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ 英語Ⅴ 文章表現法		
	国際語合Ⅰ 国際語合Ⅱ 国際語合Ⅲ 国際語合Ⅳ 国際語合Ⅴ	総合英語 B-Ⅰ	総合英語 B-Ⅱ	総合英語 B-Ⅲ	総合英語 B-Ⅳ	総合英語 B-Ⅴ		英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ 英語Ⅴ	英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ 英語Ⅴ		
	必要の情報・データを収集し、適切な分析・評価に基づき、効果的に活用できる能力	情報基礎Ⅰ	情報基礎Ⅱ					社会実装 PBLⅠ-Ⅱ (西語)	社会実装 PBLⅡ-Ⅱ (西語)	卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
(C) 生涯にわたって健全な心身を維持し、自ら学び続ける姿勢を持ち、社会の変化に柔軟に対応し課題に挑戦し続ける力を身につけている	自分の特性や強み、優越感などを把握しながら、健全な心身を維持するための自己管理能力	体育Ⅰ 体育Ⅱ		体育Ⅲ 体育Ⅳ		体育Ⅴ		体育Ⅵ			
	健康と福祉							教育選択Ⅰ 教育選択Ⅱ		教育選択Ⅰ 教育選択Ⅱ	
	芸術										
(D) 自然科学系の一般科目で培った基礎学力と専門分野の基本的な知識、技能を修得し、様々な課題解決のために活用できる読解力、創造力、研究開発能力を身につけている	河東のキャリアを基盤として、必要なスキルを得るために自主的、継続的に学び続ける姿勢							インターンシップ			
	社会の課題やその変化に関心を持ち、自分なりの解決策をデザインし挑戦し続ける姿勢							卒業研究Ⅰ (西語)		卒業研究Ⅱ (西語)	
	数学	基礎数学ⅠA 基礎数学ⅡA 解析ⅠA 解析Ⅱ 解析Ⅲ	微分方程式 数学総合演習Ⅰ		数学総合演習Ⅱ						
数学、物理、化学、バイオ等の基礎的な知識・技能	物理	基礎数学ⅠB 基礎数学ⅡB 線形代数Ⅰ 線形代数Ⅱ 線形代数Ⅲ	確率統計 統計リテラシー		応用数学						
	化学	物理Ⅰ 物理Ⅱ 物理Ⅲ 物理Ⅳ 物理Ⅴ 物理Ⅵ	物理Ⅶ								量子からみた世界
	化学	化学Ⅰ 化学Ⅱ 化学Ⅲ 化学Ⅳ 化学Ⅴ	化学Ⅵ								
(E) 自然科学系の一般科目で培った基礎学力と専門分野の基本的な知識、技能を修得し、様々な課題解決のために活用できる読解力、創造力、研究開発能力を身につけている	材料工学	材料工学Ⅰ 材料工学Ⅱ 材料工学Ⅲ 材料工学Ⅳ 材料工学Ⅴ		材料工学Ⅵ 材料工学Ⅶ 材料工学Ⅷ 材料工学Ⅸ 材料工学Ⅹ							
	ソフトウェア	情報科学Ⅰ 情報科学Ⅱ 情報科学Ⅲ 情報科学Ⅳ 情報科学Ⅴ	情報科学Ⅵ 情報科学Ⅶ 情報科学Ⅷ 情報科学Ⅸ 情報科学Ⅹ								
	コース共通	情報科学Ⅰ 情報科学Ⅱ 情報科学Ⅲ 情報科学Ⅳ 情報科学Ⅴ	情報科学Ⅵ 情報科学Ⅶ 情報科学Ⅷ 情報科学Ⅸ 情報科学Ⅹ								
情報工学の基礎的な知識、技能を修得し、様々な課題解決のために活用できる読解力、創造力、研究開発能力を身につけている	ハードウェア	論理回路Ⅰ	論理回路Ⅱ		計算機工学						
	情報通信	通信伝送工学		情報通信ネットワーク							
	ものづくり基礎工学	ものづくり基礎工学Ⅰ ものづくり基礎工学Ⅱ ものづくり基礎工学Ⅲ ものづくり基礎工学Ⅳ ものづくり基礎工学Ⅴ		ものづくり基礎工学Ⅵ ものづくり基礎工学Ⅶ ものづくり基礎工学Ⅷ ものづくり基礎工学Ⅸ ものづくり基礎工学Ⅹ						研究工学 (生産・安全を含む)	
計画・実行するために必要な知識を理解し、与えられた制約の下で、自ら計画を立案し、実行できる能力	各コース実装実習演習科目	各コース実装実習演習科目		各コース実装実習演習科目		各コース実装実習演習科目		各コース実装実習演習科目			
	多角的な視点から合理的に分析・評価を行い、考察、結論を明確かつ論理的に説明できる能力	社会実装 PBLⅠ-Ⅱ (西語)		社会実装 PBLⅡ-Ⅱ (西語)		社会実装 PBLⅢ-Ⅱ (西語)		社会実装 PBLⅣ-Ⅱ (西語)			
	様々な知識を統合的に活用しながら、あらかじめ考えられている問題に対する解決方法を提案できる能力	卒業研究Ⅰ (西語)		卒業研究Ⅱ (西語)		卒業研究Ⅲ (西語)		卒業研究Ⅳ (西語)			
社会ニーズに応じた課題を把握し、達成すべき目標のために行動・実践できる能力	電力・電気・電子工学	基礎電気工学 基礎電子工学		基礎電気工学 基礎電子工学		基礎電気工学 基礎電子工学		基礎電気工学 基礎電子工学		基礎電気工学 基礎電子工学	
	情報通信/IT	情報通信Ⅰ 情報通信Ⅱ 情報通信Ⅲ 情報通信Ⅳ 情報通信Ⅴ		情報通信Ⅵ 情報通信Ⅶ 情報通信Ⅷ 情報通信Ⅸ 情報通信Ⅹ							
	計算機システム	計算機システムⅠ 計算機システムⅡ 計算機システムⅢ 計算機システムⅣ 計算機システムⅤ		計算機システムⅥ 計算機システムⅦ 計算機システムⅧ 計算機システムⅨ 計算機システムⅩ							
コース選択科目	ライフサイエンスコース	生体材料工学		生体材料工学		生体材料工学		生体材料工学			
	知能化システムコース	ロボット・モビリティ工学		ロボット・モビリティ工学		ロボット・モビリティ工学		ロボット・モビリティ工学			
	ロボットシステムコース	ロボット・モビリティ工学		ロボット・モビリティ工学		ロボット・モビリティ工学		ロボット・モビリティ工学			
専攻科選択科目	計算機システム	計算機システムⅠ 計算機システムⅡ 計算機システムⅢ 計算機システムⅣ 計算機システムⅤ		計算機システムⅥ 計算機システムⅦ 計算機システムⅧ 計算機システムⅨ 計算機システムⅩ							
	電子デバイス特論	電子デバイス特論Ⅰ 電子デバイス特論Ⅱ 電子デバイス特論Ⅲ 電子デバイス特論Ⅳ 電子デバイス特論Ⅴ		電子デバイス特論Ⅵ 電子デバイス特論Ⅶ 電子デバイス特論Ⅷ 電子デバイス特論Ⅸ 電子デバイス特論Ⅹ							
	無機化学特論	無機化学特論Ⅰ 無機化学特論Ⅱ 無機化学特論Ⅲ 無機化学特論Ⅳ 無機化学特論Ⅴ		無機化学特論Ⅵ 無機化学特論Ⅶ 無機化学特論Ⅷ 無機化学特論Ⅸ 無機化学特論Ⅹ							

情報系コースでの開設単位数

	1年	2年	3年	4年	5年
一般累計	24	46	66	74	74
専門累計	7	18	30	63	85
合計累計	31	64	96	137	159
一般選択			1	10	6
専門選択			2	10	8

※赤枠内は累計、一般選択および専門選択は各年ごとの単位数

物質系コース

令和9年度1年生用

学部学系		選択科目		必修科目		必修科目		選択必修（科目群内の科目は必修科目あるいは選択科目）		選択必修の条件			
		本科1年		本科2年		本科3年		本科4年		本科5年			
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
本科DP													
(A) 技術と地球環境や社会との関係や異なる文化・社会を理解し、社会で求められる能力と的確な行動規範を認識し、社会的に主体的に関与する責任を自覚している		異文化理解や地球環境問題も含めた地球の視野を持って多面的に物事を考える力		テクノロジと未来									
		現代社会論		近現代史探究Ⅰ		近現代史探究Ⅱ							
		対話と哲学論						技術者のための数学論					
(B) 言語や情報、データを活用し、他者と協働しつつ積極的にコミュニケーションでできる能力を身につけ、グローバルな視野に立ち、多様な人々と協働することができる		社会や環境、人々に対する影響などを評価した上で、技術者として責任を担って主体的に社会に関わる姿勢						社会実装PBLⅡ-Ⅰ		社会実装PBLⅡ-Ⅱ	社会実装PBLⅡ-Ⅲ		
								社会実装PBLⅡ-Ⅰ(再掲)		社会実装PBLⅡ-Ⅱ(再掲)	社会実装PBLⅡ-Ⅲ(再掲)		
		チームにおける実用と役割を理解し、その目標達成のために協働できる能力		総合英語A-Ⅰ		総合英語A-Ⅱ	総合英語A-Ⅲ	総合英語A-Ⅳ	総合英語A-Ⅴ	TOEIC English	English Seminar/基礎/発展		
(C) 生涯にわたって豊かな心を維持し、自ら学び続ける姿勢を持ち、社会の変化に柔軟に対応し課題に挑戦し続ける力を身につけている		言語での的確に情報、数値とともに、言語や文化の異なる他者を理解しコミュニケーションでできる能力		総合英語B-Ⅰ		総合英語B-Ⅱ	総合英語B-Ⅲ	総合英語B-Ⅳ	総合英語B-Ⅴ	英語Ⅰ	英語Ⅱ		
				総合英語C-Ⅰ		総合英語C-Ⅱ		総合英語C-Ⅲ	総合英語C-Ⅳ	Eng. for Sci. & Technology	社会実装PBLⅡ-Ⅰ(再掲)		
		演習総合Ⅰ		演習総合Ⅱ	演習総合Ⅲ	演習総合Ⅳ	演習総合Ⅴ	文章表現法					
(D) 生涯にわたって豊かな心を維持し、自ら学び続ける姿勢を持ち、社会の変化に柔軟に対応し課題に挑戦し続ける力を身につけている		必要な情報・データを収集し、適切な評価・分析に基づき、効果的に活用できる能力		情報基礎Ⅰ		情報基礎Ⅱ			社会実装PBLⅡ-Ⅰ(再掲)	社会実装PBLⅡ-Ⅱ(再掲)	卒業研究Ⅰ		
										卒業研究Ⅱ	卒業研究Ⅲ		
		体育Ⅰ		体育Ⅱ		体育Ⅲ		体育Ⅳ					
(E) 生涯にわたって豊かな心を維持し、自ら学び続ける姿勢を持ち、社会の変化に柔軟に対応し課題に挑戦し続ける力を身につけている		自分の特性や能力、価値観などを把握しながら、健全な心身を維持するための自己管理能力		健康と福祉				教養選択Ⅰ		教養選択Ⅱ	教養選択Ⅲ		
				芸術									
		将来のキャリアを見据えて、必要なスキルを得るために自主的、継続的に学び続ける姿勢						インターシップ					
(F) 生涯にわたって豊かな心を維持し、自ら学び続ける姿勢を持ち、社会の変化に柔軟に対応し課題に挑戦し続ける力を身につけている								社会実装PBLⅡ-Ⅰ(再掲)		社会実装PBLⅡ-Ⅱ(再掲)	社会実装PBLⅡ-Ⅲ(再掲)		
								社会実装PBLⅡ-Ⅰ(再掲)		社会実装PBLⅡ-Ⅱ(再掲)	社会実装PBLⅡ-Ⅲ(再掲)		
		社会の課題やその変化に関心を持ち、自分らの解決策をデザインし挑戦し続ける姿勢						卒業研究Ⅰ(再掲)		卒業研究Ⅱ(再掲)			
(G) 自然科学系的一般科目で培われた基礎学力と専門分野の基本的な知識・技能を修得し、様々な課題解決のために活用できる実践力、創造力、研究開発能力を身につけている		数学		基礎数学ⅠA		基礎数学ⅡA	解析ⅠA	解析Ⅱ	解析Ⅲ	微分方程式	数学総合演習Ⅰ	数学総合演習Ⅱ	
						解析ⅠB				確率統計		統計リテラシー	応用数学
				基礎数学ⅠB		基礎数学ⅡB	線形代数Ⅰ	線形代数Ⅱ	線形代数Ⅲ				
		物理		物理Ⅰ		物理Ⅱ	物理Ⅲ	物理Ⅳ	物理Ⅴ	物理Ⅵ			量子からみた世界
				化学Ⅰ		化学Ⅱ	化学Ⅲ	化学Ⅳ	化学Ⅴ	化学議論			
				3ヶ月(12h)、7ヶ月(24h)						3ヶ月(12h)、7ヶ月(24h)		アースサイエンス	
		理科共通		各コース実験実習演習科目		各コース実験実習演習科目	各コース実験実習演習科目	各コース実験実習演習科目	各コース実験実習演習科目	各コース実験実習演習科目	各コース実験実習演習科目	各コース実験実習演習科目	
				無機化学Ⅰ		無機化学Ⅱ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅱ	有機化学Ⅲ	高分子化学			肉内から3科目以上の単位を修得すること
				物質工学基礎実験Ⅰ		物質工学基礎実験Ⅱ	物質工学実験Ⅰ	物質工学実験Ⅱ	物質工学実験Ⅲ	物質工学実験Ⅳ	物質工学実験Ⅴ	物質工学実験Ⅵ	肉内から2科目以上の単位を修得すること
		コース共通		物質工学の基礎の上に、物質科学(無機・有機・高分子)の分野・物理工学(分析・物理化学・化学工学)・生物・環境の専門的知識を有し、これらを活用し、実用化・創造力、研究開発能力を身につけている		物質工学創造実験Ⅰ		社会実装PBLⅡ-Ⅰ(再掲)	社会実装PBLⅡ-Ⅱ(再掲)	社会実装PBLⅡ-Ⅲ(再掲)	社会実装PBLⅡ-Ⅳ(再掲)	社会実装PBLⅡ-Ⅴ(再掲)	社会実装PBLⅡ-Ⅵ(再掲)
				化学プロセス(分析・物理化学・化学工学)		分析化学Ⅰ		分析化学Ⅱ		工業化学Ⅰ	工業化学Ⅱ	化学工学Ⅰ	化学工学Ⅱ
						情報処理演習Ⅰ		情報処理演習Ⅱ	物理化学Ⅰ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅲ		
		生物・環境		基礎生物Ⅰ		基礎生物Ⅱ				生物化学Ⅰ		生物化学Ⅱ	
				ものづくり基礎工学						基礎工学Ⅰ(生産・安全を兼ね)			
				社会実装PBLⅡ-Ⅰ-Ⅰ		社会実装PBLⅡ-Ⅰ-Ⅱ							
計画、実行するために必要な知識を理解し、与えられた制約の中で、自ら評価を立案し、実行できる能力		各コース実験実習演習科目		各コース実験実習演習科目	各コース実験実習演習科目	各コース実験実習演習科目	各コース実験実習演習科目	各コース実験実習演習科目	各コース実験実習演習科目	各コース実験実習演習科目	各コース実験実習演習科目		
		社会実装PBLⅡ-Ⅰ(再掲)		社会実装PBLⅡ-Ⅱ(再掲)	社会実装PBLⅡ-Ⅲ(再掲)	社会実装PBLⅡ-Ⅳ(再掲)	社会実装PBLⅡ-Ⅴ(再掲)	社会実装PBLⅡ-Ⅵ(再掲)	卒業研究Ⅰ(再掲)	卒業研究Ⅱ(再掲)			
		様々な知識を統合的に活用しながら、あらかじめ答えが与えられていない問題に対する解決方法を提案できる能力											
社会ニーズに応じた課題を把握し、達成すべき目標のために行動・実践できる能力													
電力・電気3系		基礎電気工学		基礎電気工学		基礎電気工学		基礎電気工学		基礎電気工学			
		基礎電子工学		基礎電子工学		基礎電子工学		基礎電子工学		基礎電子工学			
										発電・電気計測工			
										基礎制御工学			
情報通信3科目		通信伝達工学Ⅰ		通信伝達工学Ⅱ		通信伝達工学Ⅲ		通信伝達工学Ⅳ		通信伝達工学Ⅴ			
		計算機システム		計算機システム		計算機システム		計算機システム		計算機システム			
		生体材料工学		生体材料工学		生体材料工学		生体材料工学		生体材料工学			
ライフサイエンスコース		デジタル信号処理工学Ⅰ		デジタル信号処理工学Ⅱ		デジタル信号処理工学Ⅲ		デジタル信号処理工学Ⅳ		デジタル信号処理工学Ⅴ			
		ロボット・モビリティ工学		ロボット・モビリティ工学		ロボット・モビリティ工学		ロボット・モビリティ工学		ロボット・モビリティ工学			
短観化システムコース		ロボット・モビリティ工学		ロボット・モビリティ工学		ロボット・モビリティ工学		ロボット・モビリティ工学		ロボット・モビリティ工学			
ロボットシステムコース		ロボット・モビリティ工学		ロボット・モビリティ工学		ロボット・モビリティ工学		ロボット・モビリティ工学		ロボット・モビリティ工学			
専攻科選択科目		計測制御工学Ⅰ		計測制御工学Ⅱ		計測制御工学Ⅲ		計測制御工学Ⅳ		計測制御工学Ⅴ			
		電子デバイス特論		電子デバイス特論		電子デバイス特論		電子デバイス特論		電子デバイス特論			
		制御工学特論		制御工学特論		制御工学特論		制御工学特論		制御工学特論			
		物理化学特論		物理化学特論		物理化学特論		物理化学特論		物理化学特論			
		有機化学特論		有機化学特論		有機化学特論		有機化学特論		有機化学特論			
		生物化学特論		生物化学特論		生物化学特論		生物化学特論		生物化学特論			

物質系コースでの開設単位数

	1年	2年	3年	4年	5年
一般累計	24	46	66	74	74
専門累計	7	17	30	59	85
合計累計	31	63	96	133	159
一般選択			1	10	6
専門選択			3	14	8

※赤枠内は累計、一般選抜および専門選抜は各年ごとの単位数

協創工学一貫教育プログラム

令和9年度1年生用

		選択科目		必修科目		必修科目		選択必修（科目群内の科目は 必修科目あるいは選択科目）		選択必修科目	
		本科1年		本科2年		本科3年		本科4年		本科5年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
本科DP	(A) 技術と地球環境と社会との関係や異なる文化・社会を理解し、技術的に必要となる命題と、様々な行動規範を認識し、社会に主体的に関わる責任を自覚している	異文化理解や地球環境課題も含めた地球視野を持って多面的に物事を考える力		技術の社会や自然に及ぼす影響や効果の自覚と、必要な倫理観や行動規範の理解		技術者のための数学検定		社会実装 PBL II - I 社会実装 PBL II - II 社会実装 PBL II - III		社会実装 PBL II - III	
	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果の自覚と、必要な倫理観や行動規範の理解		対話と思考実験		現代社会論 近現代史探究 I 近現代史探究 II		社会実装 PBL II - I 社会実装 PBL II - II 社会実装 PBL II - III		社会実装 PBL II - III		社会実装 PBL II - III
(B) 言語や情報、データを活用し、他者と協働しつつ機動的にコミュニケーションできる能力を身につけ、グローバルな視野に立って、多様な人々と協働することができる	チームにおける責任と役割を理解し、その目標達成のために協働できる能力	総合英語 A - I 総合英語 A - II 総合英語 A - III 総合英語 A - IV 総合英語 A - V		総合英語 B - I 総合英語 B - II 総合英語 B - III 総合英語 B - IV 総合英語 B - V		総合英語 C - I 総合英語 C - II 総合英語 C - III 総合英語 C - IV 総合英語 C - V		総合英語 D - I 総合英語 D - II 総合英語 D - III 総合英語 D - IV 総合英語 D - V		総合英語 E - I 総合英語 E - II 総合英語 E - III 総合英語 E - IV 総合英語 E - V	
	英語での理解、表現するとともに、言語や文化の異なる他者を理解しコミュニケーションできる能力	総合英語 A - I 総合英語 A - II 総合英語 A - III 総合英語 A - IV 総合英語 A - V		総合英語 B - I 総合英語 B - II 総合英語 B - III 総合英語 B - IV 総合英語 B - V		総合英語 C - I 総合英語 C - II 総合英語 C - III 総合英語 C - IV 総合英語 C - V		総合英語 D - I 総合英語 D - II 総合英語 D - III 総合英語 D - IV 総合英語 D - V		総合英語 E - I 総合英語 E - II 総合英語 E - III 総合英語 E - IV 総合英語 E - V	
(C) 生涯にわたって健全な心身を維持し、自ら学び続ける姿勢を持ち、社会の変化に柔軟に対応し課題に挑戦し続ける能力を身につけている	必要な情報・データを収集し、適切な評価・分析に基づき、効果的に活用できる能力	情報基礎 I 情報基礎 II		社会実装 PBL II - I 社会実装 PBL II - II 社会実装 PBL II - III		社会実装 PBL II - III		社会実装 PBL II - III		卒業研究 I 卒業研究 II	
	自分の特性や地味、価値観などを把握しながら、健全な心身を維持するための自己管理能力	体育 I 健康と福祉 芸術		体育 II 健康と福祉 芸術		体育 III 健康と福祉 芸術		体育 IV 健康と福祉 芸術		卒業研究 I 卒業研究 II	
(D) 自然科学系の一般科目で培われた基礎学力と専門分野の基本的知識・技能を修得し、様々な課題解決のために活用できる実力、創造力、研究開発能力を身につけている	将来のキャリアを見据えて、必要なスキルを得るために自主的、継続的に学び続ける能力	基礎数学 I A 基礎数学 I B 基礎数学 I C 基礎数学 I D 基礎数学 I E 基礎数学 I F 基礎数学 I G 基礎数学 I H 基礎数学 I I 基礎数学 I J 基礎数学 I K 基礎数学 I L 基礎数学 I M 基礎数学 I N 基礎数学 I O 基礎数学 I P 基礎数学 I Q 基礎数学 I R 基礎数学 I S 基礎数学 I T 基礎数学 I U 基礎数学 I V 基礎数学 I W 基礎数学 I X 基礎数学 I Y 基礎数学 I Z 基礎数学 I AA 基礎数学 I AB 基礎数学 I AC 基礎数学 I AD 基礎数学 I AE 基礎数学 I AF 基礎数学 I AG 基礎数学 I AH 基礎数学 I AI 基礎数学 I AJ 基礎数学 I AK 基礎数学 I AL 基礎数学 I AM 基礎数学 I AN 基礎数学 I AO 基礎数学 I AP 基礎数学 I AQ 基礎数学 I AR 基礎数学 I AS 基礎数学 I AT 基礎数学 I AU 基礎数学 I AV 基礎数学 I AW 基礎数学 I AX 基礎数学 I AY 基礎数学 I AZ 基礎数学 I BA 基礎数学 I BB 基礎数学 I BC 基礎数学 I BD 基礎数学 I BE 基礎数学 I BF 基礎数学 I BG 基礎数学 I BH 基礎数学 I BI 基礎数学 I BJ 基礎数学 I BK 基礎数学 I BL 基礎数学 I BM 基礎数学 I BN 基礎数学 I BO 基礎数学 I BP 基礎数学 I BQ 基礎数学 I BR 基礎数学 I BS 基礎数学 I BT 基礎数学 I BU 基礎数学 I BV 基礎数学 I BW 基礎数学 I BX 基礎数学 I BY 基礎数学 I BZ 基礎数学 I CA 基礎数学 I CB 基礎数学 I CC 基礎数学 I CD 基礎数学 I CE 基礎数学 I CF 基礎数学 I CG 基礎数学 I CH 基礎数学 I CI 基礎数学 I CJ 基礎数学 I CK 基礎数学 I CL 基礎数学 I CM 基礎数学 I CN 基礎数学 I CO 基礎数学 I CP 基礎数学 I CQ 基礎数学 I CR 基礎数学 I CS 基礎数学 I CT 基礎数学 I CU 基礎数学 I CV 基礎数学 I CW 基礎数学 I CX 基礎数学 I CY 基礎数学 I CZ 基礎数学 I DA 基礎数学 I DB 基礎数学 I DC 基礎数学 I DD 基礎数学 I DE 基礎数学 I DF 基礎数学 I DG 基礎数学 I DH 基礎数学 I DI 基礎数学 I DJ 基礎数学 I DK 基礎数学 I DL 基礎数学 I DM 基礎数学 I DN 基礎数学 I DO 基礎数学 I DP 基礎数学 I DQ 基礎数学 I DR 基礎数学 I DS 基礎数学 I DT 基礎数学 I DU 基礎数学 I DV 基礎数学 I DW 基礎数学 I DX 基礎数学 I DY 基礎数学 I DZ 基礎数学 I EA 基礎数学 I EB 基礎数学 I EC 基礎数学 I ED 基礎数学 I EE 基礎数学 I EF 基礎数学 I EG 基礎数学 I EH 基礎数学 I EI 基礎数学 I EJ 基礎数学 I EK 基礎数学 I EL 基礎数学 I EM 基礎数学 I EN 基礎数学 I EO 基礎数学 I EP 基礎数学 I EQ 基礎数学 I ER 基礎数学 I ES 基礎数学 I ET 基礎数学 I EU 基礎数学 I EV 基礎数学 I EW 基礎数学 I EX 基礎数学 I EY 基礎数学 I EZ 基礎数学 I FA 基礎数学 I FB 基礎数学 I FC 基礎数学 I FD 基礎数学 I FE 基礎数学 I FF 基礎数学 I FG 基礎数学 I FH 基礎数学 I FI 基礎数学 I FJ 基礎数学 I FK 基礎数学 I FL 基礎数学 I FM 基礎数学 I FN 基礎数学 I FO 基礎数学 I FP 基礎数学 I FQ 基礎数学 I FR 基礎数学 I FS 基礎数学 I FT 基礎数学 I FU 基礎数学 I FV 基礎数学 I FW 基礎数学 I FX 基礎数学 I FY 基礎数学 I FZ 基礎数学 I GA 基礎数学 I GB 基礎数学 I GC 基礎数学 I GD 基礎数学 I GE 基礎数学 I GF 基礎数学 I GG 基礎数学 I GH 基礎数学 I GI 基礎数学 I GJ 基礎数学 I GK 基礎数学 I GL 基礎数学 I GM 基礎数学 I GN 基礎数学 I GO 基礎数学 I GP 基礎数学 I GQ 基礎数学 I GR 基礎数学 I GS 基礎数学 I GT 基礎数学 I GU 基礎数学 I GV 基礎数学 I GW 基礎数学 I GX 基礎数学 I GY 基礎数学 I GZ 基礎数学 I HA 基礎数学 I HB 基礎数学 I HC 基礎数学 I HD 基礎数学 I HE 基礎数学 I HF 基礎数学 I HG 基礎数学 I HH 基礎数学 I HI 基礎数学 I HJ 基礎数学 I HK 基礎数学 I HL 基礎数学 I HM 基礎数学 I HN 基礎数学 I HO 基礎数学 I HP 基礎数学 I HQ 基礎数学 I HR 基礎数学 I HS 基礎数学 I HT 基礎数学 I HU 基礎数学 I HV 基礎数学 I HW 基礎数学 I HX 基礎数学 I HY 基礎数学 I HZ 基礎数学 I IA 基礎数学 I IB 基礎数学 I IC 基礎数学 I ID 基礎数学 I IE 基礎数学 I IF 基礎数学 I IG 基礎数学 I IH 基礎数学 I II 基礎数学 I IJ 基礎数学 I IK 基礎数学 I IL 基礎数学 I IM 基礎数学 I IN 基礎数学 I IO 基礎数学 I IP 基礎数学 I IQ 基礎数学 I IR 基礎数学 I IS 基礎数学 I IT 基礎数学 I IU 基礎数学 I IV 基礎数学 I IW 基礎数学 I IX 基礎数学 I IY 基礎数学 I IZ 基礎数学 I JA 基礎数学 I JB 基礎数学 I JC 基礎数学 I JD 基礎数学 I JE 基礎数学 I JF 基礎数学 I JG 基礎数学 I JH 基礎数学 I JI 基礎数学 I JJ 基礎数学 I JK 基礎数学 I JL 基礎数学 I JM 基礎数学 I JN 基礎数学 I JO 基礎数学 I JP 基礎数学 I JQ 基礎数学 I JR 基礎数学 I JS 基礎数学 I JT 基礎数学 I JU 基礎数学 I JV 基礎数学 I JW 基礎数学 I JX 基礎数学 I JY 基礎数学 I JZ 基礎数学 I KA 基礎数学 I KB 基礎数学 I KC 基礎数学 I KD 基礎数学 I KE 基礎数学 I KF 基礎数学 I KG 基礎数学 I KH 基礎数学 I KI 基礎数学 I KJ 基礎数学 I KK 基礎数学 I KL 基礎数学 I KM 基礎数学 I KN 基礎数学 I KO 基礎数学 I KP 基礎数学 I KQ 基礎数学 I KR 基礎数学 I KS 基礎数学 I KT 基礎数学 I KU 基礎数学 I KV 基礎数学 I KW 基礎数学 I KX 基礎数学 I KY 基礎数学 I KZ 基礎数学 I LA 基礎数学 I LB 基礎数学 I LC 基礎数学 I LD 基礎数学 I LE 基礎数学 I LF 基礎数学 I LG 基礎数学 I LH 基礎数学 I LI 基礎数学 I LJ 基礎数学 I LK 基礎数学 I LL 基礎数学 I LM 基礎数学 I LN 基礎数学 I LO 基礎数学 I LP 基礎数学 I LQ 基礎数学 I LR 基礎数学 I LS 基礎数学 I LT 基礎数学 I LU 基礎数学 I LV 基礎数学 I LW 基礎数学 I LX 基礎数学 I LY 基礎数学 I LZ 基礎数学 I MA 基礎数学 I MB 基礎数学 I MC 基礎数学 I MD 基礎数学 I ME 基礎数学 I MF 基礎数学 I MG 基礎数学 I MH 基礎数学 I MI 基礎数学 I MJ 基礎数学 I MK 基礎数学 I ML 基礎数学 I MN 基礎数学 I MO 基礎数学 I MP 基礎数学 I MQ 基礎数学 I MR 基礎数学 I MS 基礎数学 I MT 基礎数学 I MU 基礎数学 I MV 基礎数学 I MW 基礎数学 I MX 基礎数学 I MY 基礎数学 I MZ 基礎数学 I NA 基礎数学 I NB 基礎数学 I NC 基礎数学 I ND 基礎数学 I NE 基礎数学 I NF 基礎数学 I NG 基礎数学 I NH 基礎数学 I NI 基礎数学 I NJ 基礎数学 I NK 基礎数学 I NL 基礎数学 I NM 基礎数学 I NO 基礎数学 I NP 基礎数学 I NQ 基礎数学 I NR 基礎数学 I NS 基礎数学 I NT 基礎数学 I NU 基礎数学 I NV 基礎数学 I NW 基礎数学 I NX 基礎数学 I NY 基礎数学 I NZ 基礎数学 I OA 基礎数学 I OB 基礎数学 I OC 基礎数学 I OD 基礎数学 I OE 基礎数学 I OF 基礎数学 I OG 基礎数学 I OH 基礎数学 I OI 基礎数学 I OJ 基礎数学 I OK 基礎数学 I OL 基礎数学 I OM 基礎数学 I ON 基礎数学 I OO 基礎数学 I OP 基礎数学 I OQ 基礎数学 I OR 基礎数学 I OS 基礎数学 I OT 基礎数学 I OU 基礎数学 I OV 基礎数学 I OW 基礎数学 I OX 基礎数学 I OY 基礎数学 I OZ 基礎数学 I PA 基礎数学 I PB 基礎数学 I PC 基礎数学 I PD 基礎									

協創工学一貫教育での開設単位

	1年	2年	3年	4年	5年
一般累計			62	70	70
専門累計			23	50	72
合計累計			89	120	142
一般選択			1	10	6
専門選択			2	18	12

★第3学年の単位数は学年課程修了の最低単位数
※赤枠内は累計、一般選択および専門選択は各年ごとの単位数

令和6年度インターンシップ受入企業リスト

No.	企業名	No.	企業名	No.	企業名
1	A・R・P	61	パナソニック	121	東芝インフラシステムズ
2	AESCジャパン	62	パナソニックコネクト	122	東通産業
3	FIXER	63	バロン電子	123	西島製作所
4	GEヘルスケアジャパン	64	ヒダン	124	日機装株式会社
5	H&J	65	ピューズ	125	日産自動車
6	IHIインフラ建設	66	マイクロテック・ラボラトリー	126	日新電子工業
7	JR西日本	67	丸善石油	127	日進電子工業
8	JR東日本	68	ミクニ	128	日清紡マイクロデバイス
9	JT北関東工場	69	ヤンマーエネルギーシステム	129	日鉄マイクロメタル
10	JUKI	70	ユーテック	130	日鉄環境
11	KDDIエンジニアリング	71	リオン	131	日東電工
12	MHIさがみハイテック	72	リニューアブルジャパン	132	日本サーモニクス
13	NECネットエスアイ	73	リビングコーポレーション	133	日本ドナルドソン
14	Nety	74	レグラス	134	日本原子力発電
15	NSW株式会社	75	ロイヤル	135	日本製鉄
16	NTT-ME	76	ワコム	136	日本電子
17	S2ファクトリー	77	永光電機	137	日本電設工業
18	SEMITEC	78	横河ソリューションサービス	138	日本品質保証機構安全電磁センター
19	SMC	79	花王	139	日本分光
20	STマイクロエレクトロニクス	80	環境管理センター	140	日本分析工業
21	TANAKAホールディングス株式会社	81	関電工	141	日立ハイテクフィールドディング
22	TMCシステム	82	京セラ	142	八雲ソフトウェア
23	U-NEXT HOLDINGS	83	京王電鉄	143	八重洲工業
24	アイ・システム	84	権田金属工業	144	浜野製作所
25	アサマコーポレーション	85	交通システム電機	145	富士フイルム ビジネスイノベーションジャパン
26	旭化成	86	国土地理院	146	富士フイルムワコーケミカル
27	アズビル	87	佐藤製作所	147	武蔵エンジニアリング
28	アズマ	88	三井化学	148	武陽ガス株式会社
29	アドバンスドプランニング	89	三井不動産	149	豊田中央研究所
30	アンドリッツ	90	三協オイルレス工業	150	北陸先端科学技術大学院大学
31	イノテック	91	三菱ガス化学	151	牧野フライス製作所
32	インフォコム	92	三菱電機ビルソリューションズ	152	網屋
33	ウサギ	93	三菱電機プラントエンジニアリング	153	木徳神糧
34	オブティム	94	山梨大学工学部	154	友伸エンジニアリング
35	キーサイトテクノロジー	95	住友金属鉱山	155	碌々スマートテクノロジー
36	キャノンメディカルシステムズ	96	出光興産		
37	九州工業大学	97	小田原エンジニアリング		
38	クリエイティブキャスト	98	情報通信研究機構		
39	クレスコ・ネクシオ	99	新協電子		
40	国際ソフトウェア	100	森ビル		
41	コムニック	101	森永乳業多摩工場		
42	ザイマックスグループ	102	西尾レントオール		
43	サントリー	103	川研ファインケミカル		
44	サントリーグループ	104	泰興物産		
45	ジェイクリエーション	105	大林組		
46	シチズン時計マニファクチャリング	106	大和ハウスリアルティマネジメント		
47	ジャノメ	107	第一化成		
48	ジャパンマリンユナイテッド	108	第一三共プロファーマ		
49	スバルテクノ	109	中部電力		
50	スリーボンド	110	朝日航洋		
51	タマディック	111	長岡技術科学大学		
52	ティ・アイ・ディ	112	電気興業		
53	テス	113	島津メディカルシステムズ(株)		
54	トーテックアメニティ	114	東ソー情報システム		
55	ドコモCS	115	東レ株式会社千葉工場		
56	トヨタ自動車	116	東京エレクトロン		
57	ニコン	117	東京エレクトロングループ		
58	ニッセー	118	東京ドロウイング		
59	日本アルゴリズム	119	東京電力ホールディングス株式会社(日本原子力発電)		
60	ネットワーク応用通信研究所	120	東京都都市づくり公社		